

小岩二中

特別支援教育だより

お子様について、困りごとはありませんか？

中学校生活を通して、前と比べてできるようになったことを発見することで、保護者の皆様はお子様の成長を頼もしく思うことがあるかと思えます。一方でお子様が苦手とすることがあったり、他の子どもと比べて、発達や能力が遅れているのではとご心配になることや、お困りになることはないでしょうか。お子様が安心して毎日楽しく過ごせることが第一であっても、対人関係や勉強、進路選択など中学生としての生活の中で避けられない課題があり、状況によっては、お子様が苦手意識を強めて思うように行動できず、つらい気持ちを抱えてしまうこともあるかもしれません。



今回は二中生とその保護者の方が抱える困りごとの解決の一助になればと思い、中学生のいくつかの困りごととその解決策の例をお伝えしたいと思います。

① 忘れ物が多い

クラスでは毎日、係が各教科の持ち物を聞いて黒板にまとめています。クラスのチームスに載せている場合はそれを毎日決まったとき（帰ったらすぐなど次の日の準備をするタイミング）に確認するとよいでしょう。また、担任に許可を得てお子様自身が撮影して確認する、または書いた方が把握しやすい場合は、専用の手帳やメモ帳を用意するのも方法の一つです。



② コツコツと続けるのが苦手

得意な教科から取り掛かるように声をかけましょう。途中まで一緒に取り組み、「あとは自分でやってみて」ととりかかりだけ導く方法や、全体の中でどこまでならできるのかお子様に決めさせ、できているか確認し励ましほめるのも良いと思います。毎日継続してできる勉強量をお子様自身が決めるのがポイントです。

③ プリントの管理ができない



学校から帰ってくるまでは無くさないように1つのファイルに入れて、帰ってきたらまず保護者宛ての手紙などを出す場所（箱など）を決めておきましょう。授業のプリントなどで毎日持ち歩く必要がない物は、教科ごとに分けられる箱やファイルを用意して、週に1回程度お子様が仕分けできるようになるまでは、確認していた だけるとよいと思います。



家庭学習の仕方がわからない

1週間の予定の中で、1人でできる教科（好き・得意・苦手意識が少ない）を何曜日の何時からできるかお子様と話し合ってみましょう。確実にできるレベルや学習時間から始めるように促してみてください。できるようになるまでは積極的に保護者の方が関与して、できているか確認すると定着しやすいです。提出物になる各教科のワークを取り組むのもおすすめです。

④ ゲームに没頭する

ゲームをする時間や家庭でのルールを決めましょう。○時～△時まではゲームをしない、兄弟が試験期間中はみんなで我慢するなど家族みんなに配慮した守れるルールを話し合ってみてください。ルールを守れたときのごほうびを決めるという手もあります。ゲームをしないで家庭学習や提出物に取り組んで成績に反映されたことや、ゲーム漬けの生活が脳に与える影響を話してみるのもよいでしょう。



今回は解決策の一例をご紹介しました。ご参考になればと思います。

学校では、お子様の困りごとに対して相談に応じ、安心して日々の学校生活を送れるようサポートすることを目指しています。

小岩二中は特別支援教室の拠点校でもあることから、専門的な知識をもつ教員が多くいます。保護者の皆様の相談には積極的に応じ、外部の専門家やスクールカウンセラーと連携を取りながら、お子様のためにより良い支援を行っていきたいと思います。

お子様の発達についてご心配なことなどありましたら、遠慮なくご相談ください。

都立高校入学試験での「特別措置」について

- ・「耳が聞こえにくいため、英語のリスニング問題が聞き取れず解答できない」
- ・「小さい文字を判読できないため、問題文を読み切れない」



このような困りごとがある場合、試験実施方法を変更する制度があります。

中学校にご相談いただき実績を積み、高校入試の実施方法を変更する申し出ができます。

お子様に必要なのではないかと考えられたりご相談したい場合は、なるべく早めに担任にご連絡をいただければと思います。

詳細については東京都教育委員会ホームページ「東京都立高等学校入学者選抜実施要綱」の「第6 受検上の配慮」をご覧ください。